



長崎で学んだことを、私たちの毎日へ

校長 山村 恵子

3年生が修学旅行から無事に帰ってきました。今回の修学旅行は、深沢中学校としては初めて長崎・福岡（九州方面）を訪れました。8日（月）の全校朝礼では、修学旅行実行委員から3日間の報告と、平和記念公園にて折り鶴の奉納と共に行った「平和宣言」について話をしてもらいました。

先日、私達3年生は修学旅行から帰ってきました。今日は深沢中学校で初めて長崎に行った学年として、修学旅行で学んだ事をお伝えします。

今回のスローガンは「長崎初代和華蘭界限」です。これには、日本（和）、中国（華）、オランダ（蘭）という3つの文化が混ざり合ってきた長崎の歴史を自ら学び、初めて長崎を訪れる学年として、分からない事を一つでも多く「分かる」に変えていこうという思いが込められています。

まず1日目は、飛行機で長崎空港へ向かい、ペーロン体験を行いました。

ペーロンとは長崎の伝統的な船競技で、学級対抗で息を合わせてゴールを目指しました。なかなか思うように進まない学級もありましたが、仲間と協力しながら取り組むことで、団結することの大切さを学びました。



その後、平和記念公園を訪れ、学年の皆で折った千羽鶴の奉納と、代表生徒による平和宣言を行いました。平和祈念像を前に、私達が暮らしの中で享受している平和への感謝と、それが決して当たり前ではないことを実感し、平和について改めて考える機会となりました。また、夜には日本三大夜景で有名な内の一つ、稲佐山の夜景を見に行きました。

2日目は、ピースバディという案内人の方々に、各学級が2班毎で平和記念公園を案内していただきました。公園内には原爆が投下された跡地や、原爆によって壊された家の瓦や煉瓦、割れた茶碗等当時の生活していた人の痕跡が埋まっていて、「原爆当時の地層」からその様子が窺えました。その他にも水を求めて亡くなった被爆者に捧げる「平和の泉」や平和記念像がありました。当時の被害や、その後の長崎の人々の思い、復興への歩みについて学び、私達なりに考えを共有することで、原爆の恐ろしさをより実感しました。その後に訪れた原爆資料館では、多くの資料や展示を通して、戦争の悲しさと平和の尊さを深く知ることができました。

また、午後からは班別行動で、それぞれ事前に調べてきた経路を辿りながら長崎の町を巡りました。出島やグラバー園、大浦天主堂等の主要な観光地だけでなく、海外との交流が盛んだった長崎ならではの建物や文化にも触れることができました。

3日目には、太宰府天満宮を訪れました。学問の神様、菅原道真が祀られている太宰府天満宮で受験成功を願って来ました。

今回の修学旅行では、平和について学ぶだけでなく、長崎が育ててきた国際交流の歴史や、日本の伝統文化についても学ぶことができました。また、仲間と協力することの大切さや、自分の目で見て学ぶことの大切さも実感しました。

私達の学年は、本校で初めて長崎を訪れた学年です。来年、再来年に長崎を訪れる1・2年生の皆さんに向けて私達も学んだ事を残していきますが、それだけでは得られない長崎の歴史や文化、そして平和について実際に現地で学び、多くの発見をしてほしいと思います。ぜひ長崎でしか得られない貴重な体験をして来てください。

第3学年修学旅行実行委員長

【平和宣言】

皆さんは「平和」とは何だと思えますか。皆さんは、ニュースで流れる遠い国の出来事や教科書に並ぶ白黒の写真を思い浮かべられるかも知れません。しかし、平和はとても身近にあるものだと、私は思います。毎日学校に来て友達と笑い合い、授業を受けられること。家族と食卓を囲み、温かいご飯を食べられること。部活や自分の好きな事に一生懸命打ち込めること。そんな当たり前の、何気ない「日常」が平和だと、私は考えます。しかし、そんな当たり前の日常が、一つの爆弾によって簡単に壊されてしまいます。1945年8月9日午前11時2分。B29爆撃機から長崎市松山町に投下された原子爆弾によって、当時の市街地は壊滅し、その年の暮れまでに推定7万4千人の尊い命が奪われました。

ニュースにはならない事も多いけれど、今も放射線による後遺症に苦しむ人達や家族を失った悲しみが癒えない人達がとても沢山います。私はその様な歴史を学ぶ度に胸が痛みました。残念ながら、私達に戦争の時代を生きてきた人達の気持ちは計り知れません。私達にできる事は無いと思う人達もいるかも知れません。しかし、僅かながらでも、できる事はあると私は思います。それは、決して忘れてはいけない歴史である戦争や原爆の事について、この3日間で沢山学び、講師の方からお話を沢山聞き、その教えを心に刻むこと、そして、事後学習において長崎の高校生の方達に何を学んだかを伝えることです。戦争、原爆の事について得た知識を後世に語り継ぎ、風化させないことが大切だと私は考えます。

私達は、これまでの2年間に、平和について、戦争について、マイケル世良さん、高垣さん等、講師の方をお招きし、色々な事を学んできました。さあ、私達の平和学習も、もうクライマックスです。明日午前中に訪れる原爆資料館と平和公園では、あの日の長崎で何が起こり、どうなったのか、被爆者達は何を思ったのだろうか等、色々な問いを抱きながら、仲間と共に積極的に学んでいきましょう。

1945年8月9日、長崎に落とされた一発の原子爆弾が引き起こした悲劇を「過去の歴史」として風化させることは決して許されません。被爆者の方々が命を懸けて訴え続けてきた「長崎を最後の被爆地に」という切なる願いを、今度は私達が引き継ぎます。今日、そして明日、原爆や被爆者の方について理解を深め、凄惨な記憶を語り継いでいくことを、ここに宣言します。

令和8年5月31日

世田谷区立深沢中学校第3学年生徒代表



ピースバディの方々は、生徒の皆さんとさほど年齢が違わない、まさに“戦争を体験したことのない”若者たちです。その方々と対話をしながら平和公園や被爆遺構を巡ることで、3年生の皆さんは、戦争が人々の命や暮らし、そして未来を奪うものであることを改めて実感したと同時に、「平和とは何か」「自分にできることは何か」を一緒に考えることができたのではないのでしょうか。戦争は、人間が生まれながらにもっている「生きる権利」や「安心して暮らす権利」、「学ぶ権利」など、多くの人権を踏みにじるものです。

一方で、人権は遠い国や過去の出来事だけに関わるものではありません。学校生活の中にも人権があります。友達の意見に耳を傾けること、一人一人の違いを認めること、誰もが安心して学び、過ごせる環境をつくること。こうした日々の行動の積み重ねが、人権を守ることに繋がります。

皆さんには、自分の権利を大切にするとともに、周りの人の権利も大切にしてほしいと思います。自分の考えを伝えることも大切ですが、相手の思いや考えに耳を傾けることも同じように大切です。互いを尊重し合える学校は、一人一人が安心して成長できる学校です。

長崎で学んだ平和の尊さを、自分たちの学校生活に結び付けて考えてみてください。いじめや差別を許さず、困っている人に手を差し伸べること、相手を思いやる言葉を選ぶことも、平和な社会をつくる第一歩です。

6月は、ふれあい（いじめ防止強化）月間です。互いの人権を尊重し、一人一人が安心して過ごせる学校を皆さんとともに作っていきたいと思います。